

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月25日

事業所名 鈴鹿市療育センター

	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	18	1	・狭いスペースでもできる活動をするようにしている。	・設置基準は満たしているが、狭さや使いにくさを感じるため、物の配置を検討したり、整理整頓をしたりしてより安全に行う。 ・療育部屋と個別訓練室共に部屋数がもう少しあることが望ましいと思う。
	2 職員の配置数は適切である	23	7	0		・基準を満たしているが、過不足を感じる時があり、必要に応じて集団療育を担当する職員を増加して配置していく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	24	4	2	・施設全体に段差はなく、また子ども達が活動する部屋ではセラピーマットが敷いてあるため転倒対策も行っている。 ・写真カードや絵カード等、目で見てわかる情報を使用している。 ・集団療育と個別療育で部屋をわけている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	26	3	1	・空気清浄機を設置している他、必要のないものは子ども達の目のつかない所へ移動する等の空間の工夫を行っている。 ・日々、実施している清掃だけでなく、定期的に整理整頓を行っている。 ・どこまで子どもに合わせるかは難しいが、第一として、まずはケガのないように工夫している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	26	2	2	・子どもの姿を把握する上で必要なことで日々の業務の中で取り入れられている。	・振り返りが不十分で次に活かされていないことがあったため、日々の振り返りを充分行い、次に活かされるようにしていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	30	0	0		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	23	5	2		・今後も引き続き実施し、周知方法についても検討していく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	17	10	3		・第三者による外部評価を実施しておらず、今後検討していきたい。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	30	0	0	・定期的に子どもを理解するための職場内研修や外部講師を招いての研修会が組まれているだけでなく、専門性を高めるための研修会に参加する機会がある。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	29	1	0	・モニタリングを職員間で行い、保護者のニーズを踏まえて分析している。	・職員それぞれの経験や力量があるので難しい部分はあるが、研修の機会や日々の振り返り等を活用していき、更なる資質向上を目指していきたい。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	24	6	0	・適宜使用し、子どもの様子を把握し、プログラム支援に活かしている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	27	3	0		・児童発達支援計画は、発達支援が中心になっており、地域支援等意識しているものの記載が不足している内容については、更に取り組んでいきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	28	1	1	・会議をもつことで全員で意識している。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	29	1	0		
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	29	1	0	・集団療育は、クラスの様子に合わせて変えている。個別訓練では、子どもの様子に合わせて変えている。 ・活動プログラムが固定化しないように、使用する物が同じでも、目的と関わり方を変える。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	30	0	0		
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	29	1	0	・毎回、開始前に事前打合せを行い、プログラム内容や気を付けるべき点等について確認し合う。	・事前打合せはしているが、活動のねらいが共有されにくい状況があったので、情報の共有化を図るために少しでも疑問や不明な点があれば必ず声に出して確認し、理解したうえで療育に取り組んでいく。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	30	0	0	・毎回、終了後に反省会を行い、子どもや保護者の変化やその日の様子、プログラムについて等、話し合っている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	30	0	0		
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	30	0	0			
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	27	2	1		
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	28	2	0	・児童発達支援管理責任者が中心に連携を取るようになっている。	・関係機関との連携は、入所時が中心になってしまいが、必要に応じて適宜連携を図っていきたい。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	29	0	1	・医師の指示書を基にしている。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	25	2	3		・個人情報保護の観点から、保護者を通じての情報が主となっているが、必要に応じて連絡できる体制を整えていきたい。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	29	1	0	・引継ぎ書類を作成し、会議に出席している。	・保育所等と連携し、情報共有は図っているものの、相互理解までは難しい状況にある。相互理解が図れるよう話し合いを積み重ねていきたい。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	28	2	0		
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	27	2	1		
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	15	14	1	・交流保育への参加を促している。	・市主体の交流保育に申請した子どもには機会があるが、センター主体の交流を実施しておらず、独自事業として交流が可能か検討していきたい。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	25	3	2		・職員が担当で参加している。

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	29	1	0	・療育中に子どもが現時点で出来ていること、伸びが期待できることを伝えている。 ・アセスメント時だけでなく、常に療育において、保護者と日常の様子、今の様子(家庭、保育所等)について話し合っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	15	12	3		・保護者向け研修や保護者同士が話し合える場の提供は、今後必要になってくると思われる。今後、検討していきたい。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	29	1	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	28	1	1	・個別支援計画の説明は、時間を設けて丁寧に話している。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	29	0	1	・アセスメントをすると同時に日頃から気を付けて行っている。 ・各々の職員が、保護者の悩みに耳を傾け、主訴を把握して、職員間で相談し、助言していることは多いと思う。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	14	14	2	・保護者が参加している市内の当事者団体へ、職員がアドバイザーとして関わっている。	・センター独自の父母の会が実在していないため、今後、検討が必要である。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	30	0	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	23	5	2	・掲示物やメール配信で対応している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	29	1	0		・個人情報の取り扱いには、十分注意する。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	28	2	0	・丁寧に関わる必要がある保護者には、電話連絡等を個別でしていき、療育日を知らせている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11	17	2		・施設の特性もあり、今後、課題も含めて検討していきたい。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	26	2	2	・非常災害対策計画に基づいた想定訓練を行い、役割分担に基づいた打合せや職員全体で会議を行っている。今後も継続した訓練や打合せを実施する。	・マニュアルを策定しているが、不十分な面もあり、職員間で適宜検討して見直していきたい。マニュアル等に変更があった場合は、すみやかに保護者に伝えられるようにしていく。
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	29	1	0		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	29	1	0	・アセスメント時に確認している。 ・保護者からも薬に関する情報提供してもらっている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	22	5	3	・アレルギーのある子どもは、職員間で共有されている。 ・アレルギー物質が混ざらないよう、課題や道具を配慮している。 ・母子通園なので、母に相談しながら対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	29	1	0		

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	18	11	1	・虐待防止研修を職員が受講している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	12	15	3		現状では、身体拘束を行うケースがないため、児童発達支援計画に記載する等を行っていない。今後、やむを得ずのケースが生じた場合の対応を職員間で理解を深めていきたい。